



埼玉西部ライオンズ ドラフト3位指名



山
姿
舞
鶴



父・忠秀さん
(44回生)

しょうま
狩生 聖真さん
(77回生)

発行
佐伯鶴城同窓会
会長 谷川憲一
編集 委員会
広報 委員会
印刷 岡沢印刷
(有)

令和6年10月24日に行われたプロ野球ドラフト会議において、2年前の古川雄大さん(75回生)に続き佐伯鶴城高校から埼玉西武ライオンズにドラフト3位で狩生聖真さんが指名され入団をしました。

狩生さんはお父さんも佐伯鶴城野球部出身ということで親子2代で念願かなったプロ野球選手誕生となりました。今回は佐伯鶴城同窓会のために親子でインタビューを受けてくれました。

まずはドラフト3位指名おめでとうございます。今の心境をお聞かせください。

(聖真) 12月1日に入団会見が終わって、これから本当に頑張らなといいけないという気持ちが高まってきました。

佐伯鶴城高校での3年間を振り返ってみてどうでしたか？

(聖真) 渡辺監督と出会って1年生の時からマウンドに上げさせてもらって、おかげでここまで来られたので一緒にできて良かったと思っています。同級生は小さい頃からずっと野球をしていたメンバーが多かったので、本当にやりやすかったのも、環境が良かったなと思います。

鶴城だからできたことってありますか？

(聖真) 鶴城の練習は自主的な練習が多かったので、その分自分が足りないところを考えながら練習できて、それが良かったなと思います。

(←次ページへつづく)



馬場の松

佐伯鶴城高校を卒業してからあつという間に30年が過ぎた。今振り返ると、鶴城での3年間は多くの気の合う友達や親身に寄り添ってくれた先生に恵まれ、自分にとってかけがえのないものであった。実家である浄土真宗の寺院を父から受け継ぎ、住職となつて5年が経つ。僧侶として生活していく中で、浄土真宗の教えをやさしい言葉で表現した法語に遇うことがある。いつも私の背中を押してくれる大切な法語をここに紹介したい。

「これからがこれまでに決める」
もうお亡くなりになっておられるが、浄土真宗の僧侶として生涯を尽くされた藤代聰彦(ふじしろとしまろ)氏の言葉である。

一般的には、「これから」と「これまで」の順序が逆で、「これまでがこれからを決める」というのがしっくりくるだろう。しかし、このような見方の人生観であれば、辛く苦しい出来事に遭うたびに自分で決め込んだ暗くむかしい未来を想像し、行き詰まってしまうのではなからうか。

私たちの身に起こった事実が無くなることは決してない。どんなに、あんな事さえなければと思っても、その事実が消えることはない。しかし、「これからがこれまでを決める」のであれば、これらの生き方次第でこれまでの人生の意味は変わってくる。物事の見方が変わり、暗いと決めつけていた未来が開かれ、辛く苦しいと思えなかった過去が見直されてくる。

生きづらいついといわれる現代社会の中で、多くの闇を抱えた私たちにはその闇を破る光が必要ではないだろうか。闇は迷いであり、光とは智慧である。その智慧は言葉となって私たちを導き、この一度きりの人生をむなしものにはさせない。

今年で大台の50歳になる。迷いはどうにも消えそうにないが、いつも私の背中を押してくれる大切な言葉がある。「これからがこれまでを決める」

学校生活は周りに知っている人が多かったので馴染みやすかったです。

部活動以外での学校生活はどうでしたか？

(聖真) 2年になってからは野球部が多めのクラスだったので、毎日一緒に昼ごはん食べたり、購買に行ったりして、そういうのが楽しかったです。
ドラフト指名されてから周りはどんな反応でしたか？
(聖真) みんなから「おめでとう」って声を掛けられ、友達のおばあちゃんから「サインちようだい」って言われたりしたので色紙に書いたりしました。

お父さんへ質問
(狩生秀忠さん・44回生)

鶴城野球部出身でもあるお父さんは、高校時代にどのような思い出がありますか？

(忠秀) 自分たちの時は「厳しい野球部」でした。3年間悔いのないくらい無茶苦茶練習して頑張った、やり切った感じでした。ベスト16で負けたと思うのですが、春までは強いのに夏は弱くなるという伝統？があったのかな
息子さんが親の出身でもある地元の佐伯鶴城に進学したことで何かアドバイスはありましたか？



同窓会とPTAから懸垂幕が贈られ校舎に掲げています



ドラフト当日は多くのマスコミが来校

(忠秀) まあどこの高校に行っても野球を続けたいかななどと思ったんですけど、やはり自分の母校でもある鶴城に来てくれたら嬉しいかなと思っていました。そういう話をしていたら、本人も鶴城で野球がしたいと言ってくれた。野球だけするのに進学してしまうよりも、鶴城では文武両道のもと、勉強もそれなりにできないと、なかなか学校生活に集中できないので、それが昔から言われている「県南の雄」と言われている所以というか、それを感じていました。試合に行ってもちよつと他の高校とは雰囲気が違うというか、OBとか地域の方々や卒業生のバックアップが全然違うなあというのは感じていました。

地元からも注目

野球部OBや同窓生からの応援って感じたことはありませんか？

(聖真) 夏の大会前とかはチームの取材をされたので、野球部だけじゃなくて色んなところで注目されているんだなと思いました。



中庭で仲間たちから胸上げ

古川先輩からもアドバイス

2年先輩に同じくライオンズに進んだ古川雄大選手(75回生)とは何か話されましたか？

(聖真) 入団会見の日に、寮とか見学に行った時、古川さんがいて「一緒に頑張ろうな！」「困ったら何でも聞いてな」って声をかけてくれたので、頼もしく思えました。

佐伯鶴城高校の同窓生・先輩方に意気込みを聞かせてください



野球部の仲間と記念撮影

(聖真) 佐伯鶴城出身として活躍をして、学校名を広められたらいいなと思います。これからしっかり練習に取り組んで、活躍できるように頑張りたいと思います。

◆◆◆◆◆

県南の公立高校からまたしてもプロ野球選手が誕生しました。これはこれから進学を考える中学生にとってもとても刺激になると思います。一〇年を超える伝統校であり「県南の雄」の名に恥じないよう、文武両道でこれからも頑張っていきたいです。我々同窓生もしっかりサポート・応援をしていこうと思います。

佐伯鶴城同窓会 各地区の同窓会だより

おおいた佐伯鶴城同窓会
令和6年11月9日(土)
会場…アートホテル
参加人数 58名

総会の後に懇親会を実施しました。



関西佐伯鶴城同窓会
令和6年9月23日(月)
会場…ホテルヴィキオス尼崎
参加人数 46名

日頃は関西弁を話している方も、この日ばかりは大分弁が飛び交っていたようです。
産品のごまだし、ヒオウギ貝、カキ、焼酎など約一六〇品の大抽選会で盛り上がりました。



福岡佐伯鶴城同窓会
令和6年2月12日(月)
会場…ソラリア西鉄ホテル福岡
参加人数 66名

第一回の開催からコロナ禍を経て4年ぶりの開催でした。
最後は4回生から74回生までの鶴城同窓生による校歌大合唱で無事終了しました。



佐伯鶴城関西三六会
令和6年5月15日
参加人数 28名
詳しい内容や写真は↓
こちらからご覧頂けます



佐伯鶴城関西三六会は昭和36年卒業(高校13回生)の関西在住の同級生が親睦会として始めました。今回で31回目の開催。
コロナ禍を乗り越え81歳のメンバーで名古屋に集結し、懇親会での校歌斉唱は完璧に歌えました!

名古屋城築城 加藤清正と共に 2024/05/15



同窓会を予定している学年の方は事務局まで連絡下さい。
会報を用意させて頂きます。
又、写真を下さればホームページに掲載させて頂きます。



全国大会出場・表彰者

陸上部

北部九州インターハイ

宮脇 英 100m 4位
200m 3位
佐藤 遥生 走幅跳出場
染矢 大樹 八種競技出場

SAGA国民スポーツ大会

宮脇 英 少年A100m出場
男女混合4×400mリレー
3走で出場し7位
佐藤 遥生 少年A走幅跳出場
大村 春太 少年A300mH出場
加藤 風風 少年B走幅跳出場

JOCジュニアオリンピックカップ

U18陸上競技大会

佐藤 遥生 走幅跳5位

水泳部

北部九州インターハイ

坂下 花菜 少年女子A50m
自由形出場

書道部

全国高等学校総合文化祭

金山 結華 出場

12年ぶり

49回生同窓会を開催



寄付金額：2万円
ありがとうございました。

直前にインフルエンザやコロナでキャンセルが相次ぎ予定よりもだいぶ少ない人数となりましたが、恩師4名を迎え和やかな会となりました。最後は恒例の全員で肩を組んでの校歌の大合唱！なんとアンコールまでおこつて大盛り上がりでした。

令和7年1月3日(金)
会場…金水苑
参加人数 48名

9年ぶり

37回生同窓会を開催



寄付金額：7万円
ありがとうございました。

みんなの変わらぬ笑顔と友情を再確認できました。

令和6年5月4日(土)
会場…ひょうたん小路
参加人数 70名

同窓会費はいつでも受け付けています。

年会費

3,000円

コンビニでも入金できます。

——— 終身会費として、下記のような納め方もあります。———

終身会費

(現在70歳から79歳の方は、20,000円)

(現在80歳以上の方は、10,000円)

〈同窓会費はこちらまで〉

加入者名 佐伯鶴城同窓会

口座記号番号 01740-6-47995

住所 〒876-0848
佐伯市城下東町7-1

同窓会は、会費と鶴城振興基金により下記の支援をしています。

- 「鶴城未来塾」(同窓生を講師にした講演会)の支援
- Z会添削指導費全額補助
- 休日自主学習を指導する教職員に日当支援
- 予備校活用援助(生徒派遣)等
- 会報の発行・送付
- クリスマスクッキープレゼント
- 卒業証書ホルダー贈呈

この度、同級生の紹介で理事会メンバーになることになった。同級生が佐伯市鶴岡に飲食店を移転オープンすることになり、開店に向けて掃除を手伝ってきた。少しずつ磨かれていく店内、真新しいカウンター、美しく磨かれたグラス。ピカピカの看板も設置され、ついにオープンした。店の名は『洋食アイロネ』。夜のみの営業をしていた以前の店とは少し業態が変わり、ランチも提供するそう。

今後彼の味が、より多くの佐伯市民の舌を楽しませてくれるだろうと考えると、早くもワクワクが止まらない。

染矢 修子(56回生)



詩趣豊かなる

